

令和4年度

自己点検・自己評価結果報告書

令和5年3月10日

東京女子医科大学看護専門学校

目 次

- I 学校の現状
- II 重点目標
- III 自己点検・自己評価表
- IV 評価項目別分析及び課題

I 学校の現状

1. 学校の名称

東京女子医科大学看護専門学校

2. 学校の所在地

東京都足立区江北 4-33-2

3. 沿革

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/history.html>)

4. 学科

看護学科

5. 学生数

233名 (令和4年5月1日現在)

6. 教職員数

15名

7. 事務職員

3名

8. 施設配置図

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/facilities.html>)

9. 組織図

ホームページ参照 (<http://www.twmu.ac.jp/U/VC/about/about/organization.html>)

Ⅱ 重点目標

重点目標 1：建学の精神・理念を实践できるために人として基本となる礼儀・挨拶を实践する

【Plan】 目標設定
令和元年より、学生に建学の精神・理念を伝え浸透させる取り組みを行ってきた。少しずつ進んでいるが、まず伝えていく側の教員の認識を弥生塾に参加して新たにすることや、建学の精神・理念を实践できる女性医療人に成長するために、学生とともに礼儀・挨拶の实践など基本を見直すことにした。
【Do】 行動計画
1. 専任教員 3 名「彌生塾」受講し、建学の精神・理念を新たに学び伝達講習する 2. 1 年生に新科目「人間と文化」を開講し、自校教育を行う 3. 学校目標の一つとして「あいさつ運動」を行う 4. 卒業生に行う「学校満足度調査」において、今後の建学の精神・理念の实践について考えを記述させる
【Check】 達成基準
1. 「人間と文化」を受講し学修目標が達成できる 2. 教員や学生が自然に挨拶できるようになる 3. 卒業時の学校満足度調査において、建学の精神・理念の实践についての考えを 7 割の学生が述べられる
【最終報告】
1 年生が新科目「人間と文化」を学び、全員が合格した。創始者の生き方について深く学ぶことにより、親しみや尊敬の念を感じていた。建学の精神や理念を身近に感じることに繋がっていくと思う。 挨拶運動は春と秋に 2 回行い、主観ではあるが人として必要な最低の礼儀としての挨拶が、以前より自然な形でできるようになった。

重点目標 2：ルーブリックによる実習評価表の作成

【Plan】 目標設定
現在まで実習評価表は、4 段階（A-D）の評価で教員間に差があった。令和 4 年度の新カリキュラムから、より客観的に実習評価を行っていくため、基準を明確にしたルーブリック評価を取り入れていきたいと考える。まずは、教員の学習から始めていく。 <small>（※ルーブリック：学修目標の達成度を判断するために【評価の観点】と尺度を数段階に分けて文章で示した【評価の基準】から構成される評価ツール）</small>
【Do】 行動計画
1. 全教員でルーブリック評価の勉強会を実施 2. 実習調整担当を中心として各実習領域ごとの教員間で実習評価表をルーブリックで検討を開始する
【Check】 達成基準
1. 教員がルーブリック評価について理解する 2. 基礎看護学実習 I、II（新カリキュラム）についてルーブリックによる実習評価表を検討できる
（最終報告）
教員のルーブリック評価の学習が進み、理解が深まった。 実習評価表検討は時間を必要とするため、作成には至らなかったが話し合い取り組み始めることができた。基礎看護領域の 2 種類の看護技術演習試験の評価にルーブリック表を作成し実施することができた。

重点目標 3：国家試験対策の継続・強化

【Plan】 目標設定
令和3年度は、国家試験の合格率100%であった。令和4年度の国試対策も基本は昨年同様に行っていく。特に実習時の様々な体験が国試を解く知識につながっていくため、実習中の国試勉強も強化していく。
【Do】 行動計画
1. 1～3年までの国試対策計画は、昨年同様に学生の個のレベルに合わせて実施する 2. 全教員が今年度の国試対策セミナーを視聴し共通した知識を得て学生指導を行う 3. 3年生の実習中は、実習担当教員が国試勉強状況を確認し指導する
【Check】 達成基準
1. 国家試験合格率100%
【最終報告】
昨年同様に国試対策を進めることができたが、1から3年への繋がりが不十分なところがあり、改善が必要である。模試の結果が思わしくない3年生について、実習担当教員に情報提供し個別的な関わりができるように計画したが、実習中は必然的に記録作成にエネルギーを使うため難しい状況があった。今年度の国家試験は2/12に行われ、3/24に合格発表予定である。

重点目標 4：学籍システムにおける業務改善

【Plan】 目標設定
令和3年度は、学生管理システムをクラウドサービス利用方式に移行し、教員が利用方法について学習し運用を開始した。令和4年度はさらに効率よく進めていくため、学籍システムを使って出欠確認、終講時試験の名簿作成、点数入力を事務と協力して行う。
【Do】 行動計画
1. 学生証ICカードリーダーにて出席時間を収集する 2. 事務が出席データを使って終講時試験有資格者の名簿を作成する 3. 本試験の点数を教員と事務で協力して学籍システムに入力する。システム内の成績表ファイルで一元管理する。
【Check】 達成基準
1. 出席データにより、終講時試験の受験有資格者名簿自動作成 2. 事務による本試験採点最終データ入力実施 3. 教員が成績の入力画面を活用し情報を共有できる
【最終報告】
終講時試験の受験資格名簿を自動作成できるようになり、有資格者の確認が確実に短時間で行えるようになった。また、本試の最終点データ入力も事務に依頼し、再試者の確認ミスがなくなった。教員もほぼ全員が活用できるようになった。

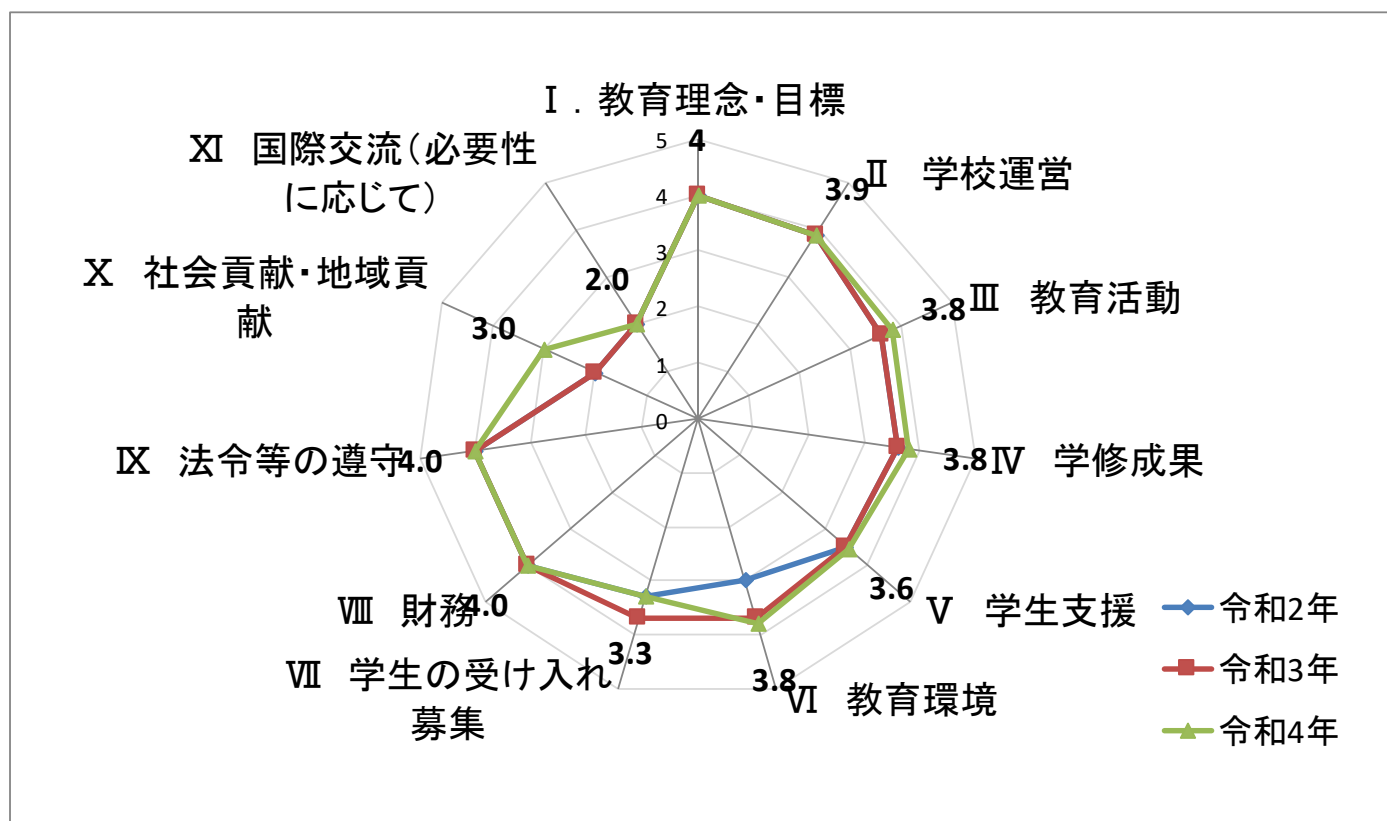
重点目標 5：卒業生の本学医療施設への入職率向

【Plan】 目標設定
過去 5 年間の卒業生の本学医療施設への入職率は、75～85%で推移していたが、昨年は、学内奨学金の廃止などの影響もあり 67.9%と最も低かった。今年度は、少なくとも入職率 75%以上をを目指す。
【Do】 行動計画
1. 1 年生の時から、本学医療施設の特徴や魅力を伝え、看護師としてのキャリアのスタートを本学で始めることを考えられるように関わる 2. 外部施設就職希望者は、早い段階から面接を行い、学外就職の目的や意図を確認し、明確でない場合は学内をすすめる
【Check】 達成基準
1. 本学医療施設の入職率 75%以上
【最終報告】 本学医療施設への入職率は 82.4%であった。 就職先に迷いがある学生に早期から面接を行い、本学の魅力や看護師教育の充実を伝えてきたことは効果があったと考える。 内定後に就職先が自分の適性に合っているか不安になる学生もいるため、早めにキャッチし十分話をきくことで落ち着くことができていた。

重点目標 6：学生の経済的支援

【Plan】 目標設定
令和 3 年度学校満足度評価結果より、「奨学金制度や学費支援制度が充実している」が、前年度に比べ 1.0 ポイント落ち込んだことを受け、学生の経済的支援を推進する
【Do】 行動計画
1. 文部科学省と日本学生支援機構が行う「高等教育の修学支援制度」に申し込み、経済的に困窮している学生の学納金を減免し、日本学生支援機構から給付の奨学金を受けられるようにする 2. 令和 4 年度より東京都看護師等修学資金貸付制度の奨学金免除規定に「東京都内施設」が加わったことにより、本学施設も免除の対象となった。経済的に困窮している学生に広く勧める。
【Check】 達成基準
1. 高等教育の修学支援制度の対象機関となる 2. 東京都看護師等修学資金を始めとした公的な奨学金や教育訓練給付金制度を積極的に斡旋する
【最終報告】 高等教育の修学支援制度利用校として東京都より認定を受け学生に周知した。4 月より受付を開始する。その他、東京都看護師等修学資金 38 名、教育訓練給付金 63 名が受給し、経済的に困窮している学生の支援になった。

令和4年度「自己点検・自己評価」評価表



(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)

I. 教育理念・目標

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特徴が明確になっているか)	4	4	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	4	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4	4
平均評価	4	4	4

II 学校運営

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4	4

4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	4	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4	4	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3.5	3.5
平均評価	3.9	3.9	3.9

Ⅲ 教育活動

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3	3
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	3	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	3	4

14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	3.5	3.5
15. 教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）しているか	2	3	3
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	3	3	3
平均評価	3.6	3.6	3.8

IV 学修成果

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 就職率の向上が図られているか	4	4	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4	4	4
3. 退学率の低減が図られているか	4	4	4
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3	3	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	3
平均評価	3.6	3.6	3.6

V 学生支援

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	3	3
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	3	3
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4	4	4
7. 保護者と適切に連携しているか	4	4	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	3	3	3
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3	3.5

10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3	3	3
平均評価	3.5	3.5	3.6

VI 教育環境

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	4	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3	3.5
3. 防災に対する体制は整備されているか	3	4	4
平均評価	3.0	3.7	3.8

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	3	4	3
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	3	3
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4	4	4
平均評価	3.3	3.7	3.3

VIII 財務

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	4	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	4	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	4
平均評価	4.0	4.0	4

IX 法令等の遵守

評価項目	令和2年	令和3年	令和4年
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4	4	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4	4	4
平均評価	4.0	4	4

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	H30	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	2	2	3
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	3	2	2	3
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	3	2	2	3
平均評価	3.3	3.3	2.0	2.0	3

XI 国際交流（必要性に応じて）

評価項目	H30	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	3	2	2	2
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	2	3	2	2	2
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2	3	2	2	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	3	2	2	2
平均評価	2.5	3.0	2.0	2.0	2

令和4年度(2022) 自己点検・自己評価表評価項目別結果及び課題 (課題は赤字で提示)

	評価項目 評点 (評点4段階評価)	結果及び課題
I	教育理念・目標 <評点 4.0> 令和3年度 4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、理念や建学の精神の理解を深めるため、人としての基本である礼儀・礼節として「あいさつ運動」を学校目標に上げ、積極的に取り組んだ。教員、学生互いの挨拶が今までより自然に行われるようになったので今後も継続することで、浸透させたい。 ・新カリキュラム開始に伴い、1年生の授業に「人間と文化」を開講した。その中で、医療人として必要な接遇やボランティア精神、および創始者吉岡彌生先生の「弥生伝」の抄読発表会、記念館の見学などから、創始者の医療者としての生き方や考えを学び、自校の理念、建学の精神の理解が深まったと考える。
II	学校運営 <評点 3.9> 令和3年度 3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の目的や事業計画に沿った運営は、問題なく行われていると考える。 ・意思決定は、教員全員参加の教務会での検討を経て、週1回の校長決裁で最終決定する体制を敷いている。 ・学生の進級・卒業判定は、外部委員も入った会議で検討し決定している。 ・現在、ホームページの見直し、改編を行っている。本校の特徴や教育活動の内容が伝わりやすくなるよう検討し、4月頃公開予定としている。 ・今年度、学籍管理システムを導入し、出席確認、成績管理をデータ化することで業務の効率化が図れた。 ・主事、副主事、教務主任、副教務主任の役割・業務規定がなかったため作成し、組織上の役割、業務を明確にした。
III	教育活動 <評点 3.8> 令和3年度 3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、1学年は新カリキュラムでの授業を開始し、問題なく進行できている。新カリキュラムの本校の特徴である大学病院ならではの再生医療、遺伝子医療など高度な医療に関する講義を、大学の専門領域の医師に担ってもらえることになり、内容が深まった。 ・講義・演習・臨地実習に関する授業評価アンケートをグーグルフォームで行い、次年度からの運用を検討している。 ・教員目標「教育の質の向上 ～学生の模範となる教員を目指して～」達成のため、教員研修を3回行った。内容の一部としては、アカデミックハラスメント、レジリエンスの強化について、成人学習者への教育的関わりなどの講義を受け、学生からの要望、意見をもとに話し合い、自らの教員としての姿勢を振り返って、課題に取り組んだ。 <p>・現在1名の教員が研究に取り組んでいるが、支援体制は十分とは言えない。</p>
IV	学修成果 <評点 3.6> 令和3年度 3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率は毎年100%を維持している。 ・国家試験対策は、例年通り定期的な模擬試験の結果、成績が上がらない学生に対して、グループや個別に学習指導を行った。昨年同様100%合格を目指している。 ・今年度の退学は、1年生3名、3年生1名の予定である。1年生3名の理由は、学業についていけない、3年生の理由は、進路を変更するということであった。学年担任が数回の面接を行い保護者とも話し合ったが、退学の意向は変らなかった。

V	学生支援 <評点 3.6> 令和3年度 3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関して10月頃より学担が2年生全員の面接を行い、迷いがある学生の話を書く事で学内の就職につながる事例もあった。今年度の学内就職予定は82%で昨年より14%増えた。 ・学生への経済的支援として東京都の看護師等修学資金を38名、教育訓練給付金を63名が受給している。また、新たに高等教育支援制度の利用施設として認められ、新年度より申し込み受け付を開始する。 ・看護系同窓会より、コロナ禍の学生生活支援として学生全員に2000円のクオカードをいただいた。 ・毎年度末、卒業生の氏名、連絡先を看護系同窓会と共有し、連携する体制を開始した。今後、卒業生の動向を把握するとともに、支援につながる活動を同窓会と連携して行きたい。
VI	教育環境 <評点 3.8> 令和3年度3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年12月より新校舎を足立区江北に開校し、1年が経過した。新しく快適な学習環境で日々の授業を受けられている。防火体制も完備されており、西新井消防に来ていただき、新校舎での避難訓練も行った。 ・実習施設である足立医療センターも同時期に移転した。足立医療センターの実習病棟へは、渡り廊下でつながっており、大変恵まれた環境下で実習できている。 ・校内病院と人事雇用対策チームの企画で、Zoomや対面による施設見学に参加できた。
VII	学生の受け入れ 募集 <評点 3.3> 令和3年度3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集のための学校説明会は、事前に撮影した動画配信やZoomでの個別相談会を6月～1月まで月1回行った。7月に在校生が座談会を企画した(Zoom)会が最も参加者が多かった。 ・説明会の内容は昨年と変わらないが、受験応募者が、昨年度より激減している状態であり、学生募集活動が効果的でないことが分かった。次年度に向けて、高校訪問や対面での説明会、体験授業の企画、在校生の活用など、受験者増のための案を策定中である。
VIII	財務 <評点 4.0> 令和3年度4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の財務は、予算収支計画とも問題なく行えている。
IX	法令の遵守 <評点4.0> 令和3年度4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守、専修学校設置基準に沿った運営を行なっている。 ・実習記録を自宅に持ち帰り記録することを可能にしたため、「個人情報の取り扱いに関するガイドライン」を作成し、学生に周知した。ガイドラインを基に個人情報保護を守り、実習が行えた。 ・自己点検・自己評価表および卒業時の学生満足度調査は、毎年ホームページに公表している。
X	社会貢献・ 地域貢献 <評点 3.0> 令和3年度2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・足立区が行っている「絆のあんしんネットワーク活動」の協力機関となった。学生には活動の趣旨を伝え、登下校時などに困っている高齢者などを見かけた際は、積極的に声をかける、連絡することなどを呼びかけた。 ・夏休みに足立医療センター外来の病院ボランティアに学生1名が参加した。 ・終業日に学生および教職員で足立医療センター周辺～江北駅位までのゴミ拾い活動を行う予定にしている。
XI	国際交流(必要性 に応じて) <評点 2.0> 令和3年度2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れは行っていないため評価できない